

証人訊問調書

ハバロフスク市

一九四六年三月二十五日

予、東京国際軍事裁判所「ソビエト」聯邦側參與
檢察官大佐「ローゼンブリット・エス・ヤー」は通訳少佐「バシ
コフスキ・アー・アー」參加ノ下ニ露西亞社會主義聯邦
「ソビエト」共和國刑法典第九十五條に基く偽証に對する
責任に就き警告を出したる上、証人として下記人物を訊問せり。
同人は次の如く証言せり。

1. 姓名(父稱) 松村 知勝 陸軍少將、
2. 年齢 一八九九年出生
3. 地位 関東軍參謀次長兼関東軍司令部第一
部長事務取扱。
4. 所属政党 如何なる政党(も所属せず如何なる団体
にも加入しあらず)
5. 居住地 ハバロフスク市、俘虜收容所。

偽証に對する責任に關し証人を又偽れる通訳に對
する責任に關し通訳者を豫め警告せる事を証する

署名は訊問調書に附載せらる可し

2145

問：貴方は露語を話すが。

答：然り。

問：貴方は露語で陳述を為するに同意か。

答：然り、同意する。併し私は露語の個々の表現を
選擇するのに或困難に遭遇する事があり得る。

問：訊問に際し通訳として少佐バシコフスキンが列席
する事を貴方に告げろが彼は若し貴方が其の点で
必要の場合には露語の語句を求めろに當り貴方を
援助しよう。それで貴方は満足か。

答：然り、全く。

問：自分の勤務経歴を述べよ。

答：一九三二年私は少尉として東京の士官学校を卒
業した。私は静岡市の歩兵第三十四聯隊に勤
務し、一九三四年中尉に進級した。一九三五年陸軍大学
に入校した。一九三八年陸軍大学を卒業し所属聯隊
へ歸った。一九三九年の終に陸軍参謀本部總務部
編成課付将校の職務に参謀本部への任命を受けた。

2146

一九三三年露語研究と大使館付武官補佐官として見習のため

2145-

「リガ」へ赴任した。

問：何故貴方は露語研究に「ソグイェト」聯邦ではなく

「リガ」へ赴いたのか。

答：當時は唯々限られたる数の人々のみが「ソグイェト」聯邦へ入る許可を得てゐたのであるが多数の將校に取つて露語研究は必須であつたから「ソグイェト」聯邦と境を接する諸國へ旅行する機会が利用せられてゐたのである。一九三四年私は大使館附武官補佐官の務取扱として且又波蘭語研究のため「ワルソー」に赴任した。一九三五年「ワルソー」の大使館附武官補佐官の職に公的に任命された。

一九三六年私は參謀本部の以前の職務に歸つた。此時迄に部隊編成課は才一部へ移されてゐた。此の年私は少佐に進級した。一九三八年中佐に進級した。一九三九年私は轉任して參謀本部才四部戦史編纂課付將校に任命された。

一九四〇年同課々長に任命された。一九四一年私は參謀本部才二(謀報)部才五「ソグイェト」情報課長に任命された。

No 3

一九四一年大佐に進級した。

一九四三年関東軍司令部才一課長に任命された。

一九四五年少将に進級し関東軍参謀次長に任命された。

問：日本にはソヴェト、聯邦に対する及び其他諸国に対する戦争の計画があったか。

答：然り。其等計画は毎年立案された。計画は参謀本部才一部才二課で作製された。併し此等計画立案には他のすべての部から資料を得る必要があった。斯くて此等計画の立案にはる実上参謀本部の殆ど凡ての部の材料が関係した。計画は才一部長及び参謀總長に依り是認せられた。参謀總長は毎年戦争計画を天皇に奏上した。

問：才一部長が作戦計画を天皇に奏上する事は可能であつたか。

答：それは可能であつたが、参謀總長臨席の場合に限られてゐた。

問：貴方は「カン・トウ・エン」計画に何何を知つてゐるか。

2145

答：「カン・トク・エン」と呼ばれたのは関東軍増強計画である。

此の計画は独ソ戦勃発後の一九四一年夏に作成せられた。

問：貴方は此の計画に何を知つてゐるか。

答：此の計画を詳細には私は知らなかつたが参謀本部に勤める中参謀本部の他の將校等から此の計画に関する概括的な資料を承知した。

問：誰が貴方に此の計画の事を話したのか。

答：才一部才二課長大佐服部卓四郎（音訳）らに思はれる。

問：貴方が関東軍作战課長であつた時貴方は此の計画を見たか。

答：否「カン・トク・エン」計画は一九四一年の事に属するが私が関東軍に赴任したのは一九四三年であつた。日本の軍には次の如き一般の處理規定が存在する、即ち計画が実効を有する間は其の計画は軍司令部に在るか新しい計画が送られて来ると古いのは東京の参謀本部へ送附されるのである。「カン・トク・エン」計画は実効のあつた間は軍司令部に置かれたが

No 5

それが実効を失ふや参謀本部へ送られた。関東軍司令部に於ては私は既にそれを見るを得なかった。

2145

問：「カン・トク・エン」計画の内容に關し参謀本部や二課長が貴方に何も語つたか、詳細に述べよ。

答：「カン・トク・エン」計画に従ひ一九四一年に新に歩兵二個師團、更に砲兵及び工兵部隊が滿洲へ送られた。滿洲に駐屯した各師團は戰時定員の約七丁%から八丁%迄其の兵員を増強した。

問：貴方が一九四三年に関東軍へ赴任した時貴方は「ソグイェト」聯邦攻撃に關聯した何等かの計画や文書を見出したか。

答：然り、當時司令部には一九四二年の對ソ聯戰争作戰計画があつた。此の計画中には関東軍の目標が示されてあつたがそれは沿海州と先づ第一番に敵に依り日本本土空襲に使用され得る「ソグイェト」空軍基地の奪取であつた。

2146

此の作戰は歩兵三十個師團、戦車三個師團、空軍四個師團の兵力で遂行すべく豫定されてゐた。

2145

チ一方面軍の攻撃主力は「グオロシーロフ」市に向けられる筈であつた。チ二方面軍は黒河及び遼河地帯に行動するといふ任務を有し敵を支へる筈であつた。チ六軍は興安地帯に於て防禦する筈であつた。此の計画は「乙」といふ符牒を持つてゐた。対ソ、聯戦争計画は常に「乙」なる符牒の下に呼ばれた。斯かる計画は毎年立案せられてゐた。一九四三年には新計画は無く参謀本部の指令に依り一九四二年の計畫が一九四三年にも適用せられた。

問：「すつとすると一九四二年四三年に日本には対ソ、聯戦争の攻撃計画があつたのか。」

答：然り。併し一九四四年四月或は五月に参謀本部の指令に依り対ソ、聯戦争計画は防禦的のものに変更せられた。

問：何故か。

答：理由を参謀本部は示さなかつたが、私の考では日本の一般状況悪化に依ると思ふ。南東軍の兵力は衰弱した。

No 7

問：如何なる対ソ、聯戦争計画が一九四四年には立案されたか。

2145

答：満洲防衛案が国境附近で豫定せられた。

問：此等の対ソ、聯戦争防衛計画も亦この文字の下に暗号化されてゐたか。

答：然り。

問：関東軍幹部中誰がこの計画を熟知してゐたか。

答：此の計画に關して知つてゐたのは、関東軍司令部内の五人のみであつた。即ち軍司令官、参謀長、参謀次長、作战班付将校、才一課長であつた。

問：それでは此等計画を梅津、山田將軍は知つてゐる筈であるか。

答：然り。

問：一九四三年のこの計画は何時東京へ送られたか。

答：一九四四年の六月か七月か私は記憶してゐない。

問：降伏の際関東軍に於て何か文書が焼却せられたか。

答：然り、降伏後一九四五年八月十五日焼却を行った。

此の外関東軍司令部が通化に撤退する事を決した

八月十日に文書の一部が焼却せられた。

No 8

2145

問：如何なる文書が焼却されたか。

答：如何なるものか明確には私は記憶してゐないが、作戦計画、謀報資料、動員計画、戦時編成が焼却された。

問：「カン・トク・エン」計画は

答：「カン・トク・エン」計画はこれより遙か以前に東京の参謀本部へ送られた。

問：如何なる一般的目标を日本は対ソヴェエト聯邦戦争に立てゝゐたか、如何なる領土も日本に併合せんと考へてゐたか。

答：公式の指令や材料を私は見てゐないので明確には申し上げ得ない、併し日本には己が勢力を東部亜細亞に拡張せんとし其の爲「ソ」聯領極東をも奪取せんとする傾向があつた。

問：「ソ」聯領の如何なる領域を奪取する豫定であつたか。

答：私は「バイカル」湖迄の「ソ」聯領奪取に付關してゐる。

No 9
問：「バイカル」湖迄の「ソ」聯領を奪取せんとする傾向も持つ日本人を貴方は指名し得るか。

2145

答：例へば一九〇五年の日露戦争の際には七人の教授
がゐたが中一人は遠水（音訳）であつた。

問：併しそれは古い歴史である。日本がバイカル湖迄のソ
聯領を奪取すべきであるといふ説に誰が最近加擔してゐた
かを貴方は述べよ。

答：田中義一大将がそれを欲してゐた事を私に聞いた。

問：それも以前の事である。最近誰がバイカル湖迄行きた
いとしてゐたか。ソ聯領極東を犠牲にして日本を拡張せんと
する傾向を誰が持つてゐたか。

答：「ソ」聯攻撃は荒木が欲してゐたが「バイカル」迄行く
考を彼が持つてゐたか否か私は知らぬ。

問：其のやうな傾向は東條にあつたか。

答：彼が関東軍参謀長であつた時彼は関東軍兵力
増強に非常な努力を爲した。

問：「ソ」ソウイェト「聯邦」に対し彼に攻撃的傾向のあつた事を
貴方は何所から知つたか。

答：彼が関東軍参謀長であつた時彼は此の軍の兵力を
増強した。彼が首相であつた時彼は独逸との提携を強化した。

No 10

2145

問：如何なるものが日本の満洲占領の目的か。

答：才一に満洲に於ける日本の覇権確立である。

問：軍務上の目的があったか。

答：支那及びソ連に対する戦争のための軍務基地設定である。

問：満洲をソ連及び支那に対する戦争の基地に復するたため何が為されたか。

答：才一に関東軍の兵力が増強せられた。

問：具体的に何が為されたか。

答：一九三一年、満洲占領前には俄處には唯々一個師團と旅團に近い兵力を有する一特別部隊があるに過ぎなかった。併し満洲占領後才一に師團の数が増し一九四一年初頭には既に十三個師團があった。独ソ戦争が勃発した当時、軍隊の数は歩兵十五個師團、戦車二個師團、空軍二個師團に達してゐた。此の外兵力に於て各々略々旅團に匹敵する九個の独立部隊と總数約二個師團半の十三個の国境守備部隊があった。

問：満洲内に新に鉄道が敷設されたか。

2145

答：一九三三年以來多くの新線が敷設されたのは私自身知
てゐる。即ち通化四平街間、延吉哈爾濱間、延吉牡丹江間、
延吉東寧間、牡丹江佳木斯間、杯口虎頭間、佳木斯松
化間、哈爾濱黑河間、齊齊哈爾黑河間、長春ハルビン間、
間、熱河北平間である。

問：此等鐵道は商業的のものか戰略的のものであつたか。

答：戰略的且商業的のものであつた。

問：戰略的か商業的かどうかが主であつたか。

答：勿論戰略的の方である。

問：何故貴方は商業的であるより戰略的の方が主である
と考へるか。

答：此等鐵道が敷設された時此の地区には未だ産業が無
かつた。併し後に此等鐵道の地区に石炭業林業が発達
し始めた。併し此等鐵道の使命は戰略的のものであつた。

問：此等鐵道の性格と方向は如何なるものであつたか。

答：鐵道の大部分はソソ聯の國境迄達してゐるが、他の或
るものは朝鮮より滿洲を横切り又或るものは大線に沿つて
走つてゐる。

No 12

2145

問：ソ連のどの国境に向つて主として鉄道は走つてゐたか。

答：東部国境即ちソ連領沿海州へ此等鉄道敷設の性格自体がソ連領沿海州に対する攻撃計画を立証してゐた。

問：軍事的足場としてこの満洲を發展せしめるため更に如何なる事がなされてゐたか。

答：満洲には産業が發展してゐた。

問：以前には何があつたか又一九四二年には如何に成つたか具体的に述べよ。

答：製鉄工業が躍進し航空機工場が建設された。

問：砂利道路は敷かれたか。

答：砂利道路は国境に沿つてのみ敷かれた。

問：どの国境に。

答：大多数は東部国境に近く、これは連絡を代行する手段であつた。

13

問：飛行場は建設されたか。

答：建設された大部分は延吉、牡丹江線と佳木斯附近及び

哈爾濱北方であつた飛行場は多数、凡そ四百位も設けられた。

2145

此等鉄道は主として主要攻撃目標即ち「ソ」聯領沿海州
の方向に設けられた。新しい軍需品倉庫が多数、その大数
は東方に建設された。凡て此等建設事業は同一の目的即
ち東部へ主要攻撃を向ける戦争準備といふ事を追求
してゐた。

問：一九三三年より四年迄の間日本政府を牛耳つてゐた
人物中誰が軍事據点としての満洲を整備する事に
関係してゐたか。

答：荒木が陸軍大臣としてこの事に關係してゐた。彼が豫算
を作製した。陸相として荒木は関東軍兵力増強と満洲
物資を源用発する事業に決定的役割を演じた。

問：此の点で梅津は如何なる役割を演じてゐたか。

答：陸軍次官として梅津は一九三七年同じく関東軍増強
満洲の産業と軍需據点的性格の発達に努力した。

14 関東軍司令官として一九三九年より一九四四年迄彼は
戦争を準備してゐた。

問：商工大臣鮎川の役割は如何なるものであつたか。

2145

答：彼は重工業会社なる「重工業」社長であり重工業発展に努力し、斯くして戦争準備に役割を果たしたといふ事を私は聞いた。

問：富永は戦争準備のため何を為したか。

答：彼は一九四〇年に参謀本部^{第二部}長であり、後一九四三年には陸軍次官となつて東條に協力した。

問：独ソ、戦争中ソ、聯に関する情報か日本軍権に依つて如何に独逸側に傳達されたかに就いて貴方は何か知つてゐるか。

答：参謀本部（規則的に独逸大使館付武官大佐「フレチメル」が来て彼に日本の参謀本部が有するソ、聯関係の情報^が傳へられた。私がソ、聯関係情報の第五課長であつた。当時「フレチメル」は屢々参謀本部へ来てソ、聯関係の情報蒐集に従ふする私の課から情報^が傳達せられる第十六（独逸）課へ彼は来てゐた。

15 問：「フレチメル」のために赤軍及びソ、聯に就いて貴方の第五課から第十六課へ傳へられる情報の性格は如何なるものであつたか。

2145

答：赤軍兵力、赤軍の極東に於ける配備、ソ聯の軍事的
 潜勢力に就いてである。但逸例は西部戦線の状勢
 をよく知つてゐたとは云へ彼等がそれを知つてゐたのは自己の観
 察のみからであり、それが「ソヴェート」露西匠で如何に評價さ
 れてゐるかを彼等は知うなかつた。我々は「ソヴェート」の刊行物
 や「モスクワ」駐劄日本大使館付武官より入る報告から得
 た資料に基づいて前線の状況に関する情報を傳へた。

問：其の時期には「ソ聯軍師團」は東方より西方へ移動
 してゐたか「ソ聯軍師團」の此の配備変更について
 貴方々は「クシネル」に資料を提供したか。

答：然り。

問：国内に於ける「ソ聯軍隊」の移動に就いて大使館付
 武官が貴方々に報告をしてゐたか。

答：然り。

問：そして貴方々は此等の情報を「クシネル」に提供したか。

16 答：然り。

問：此の時日本には「ソヴェート」聯邦との中立條約があつた。

答：然り。

2145
同：日本がソヴェト、聯邦と戦争状態に在る状態に謀報
の性質の情報（ソ聯軍隊の移動に就いて）を提供した事実
を貴方はどう評價するか。これは正しいものであつたか。

答：正しくない。

同：これは中立條約違反であるのに貴方は同意か。

答：然り。

同：赤軍関係の情報がつレチメルに提供されるやう参謀
本部で指令を出したのは誰か。

答：参謀本部才二部長 陸軍中将岡本で彼以後には
陸軍中将 有末清造（音訳）である。

同：有末清造或は岡本はつレチメルに情報も傳達する
問題を親う決定したかそれとも参謀總長の認可を得
なければならなかつたか。

答：彼等は参謀總長から指示を受けなければならなかつ
た。

17
同：それでは日本とソ、聯の間に中立條約が存在したと
は云へ日本の参謀本部は中立ではなかつた。將軍たる
貴方は斯かる日本の参謀本部の行動を如何に評價するか。

2145

答：此のやうな行動は中立的でない。

問：形式的に中立條約は存在したが事實上參謀本部はソグイト、聯邦に対して戦争を行つてゐたやうではないか。

答：然り。

問：哈桑湖及びバルヒンゴルに於ける事件に就き貴方は何を知つてゐるか。

答：私は參謀本部でオ一部オニ課の將校達からソグイト、聯邦、日本間及び蒙古人民共和国、日本間、此等諸國の境方面の領域に關し紛争があつた事、日本が武力を以て此の係争地を奪はんと欲した事を聞いた。

問：何故此の紛争を武力で解決せんと決めたのか。

答：當時參謀本部はソグイトが抵抗を示すまいと考へてゐた。これはソグイト、聯邦の武力を試みんとする欲求であつた。

問：參謀本部は哈桑湖とバルヒンゴル河畔の地域を武力で奪取する事を可決したか。

18

答：然り。

2145

問：何處から貴方はそれを承知してゐるか。

答：私は才一部才二課の一将校からそれに就いて聞いたが彼の姓は記憶してゐない。

問：ハ桑湖「ハルビンブル」河附近の地域奪取を可決した首脳部として其の将校は貴方に誰を指名したか。

答：誰々の手中に指導権が握られてゐたか私は知らないが當時参謀本部才一部長は陸軍中将橋本ケンであった。

問：三国同盟締結に於ける平沼の役割に關して貴方は何を知つてゐるか。

答：平沼内閣は三国同盟締結を希望したが成功せずして挂冠した。平沼内閣は唯此の問題に關して交渉を開始したのみである。

問：対米国戦争の目的に就いて貴方は何を知つてゐるか。

答：亜細亞から米国の影響を勢力を駆逐し東部亜細

亞に於て日本の覇権下に新秩序を建設するためである。

問：貴方は「新秩序」なる語を如何に解するか。

答：東部亜細亞より米、英、ソ聯の影響を一掃し

2145
支那、フィリピン、緬甸、東印度、印度支那を日本の覇権
下に独立国となすものである

問：如何なる状況の下に真珠湾内の米艦隊急襲の決定
が採用されたか。

答：対米国戦争に因する此の決定は一九四一年十二月初旬
の御前會議に於て採擇された。

問：誰々が此の會議に臨席したか。

答：首相兼陸相東條、参謀總長杉山、海相島田、軍令部長
永野（と思ふ）、外相東郷、藏相賀屋、府議議長原であった。

問：何處から貴方は此の會議に就き承知してゐるか。

答：私にそれについて語つたのは参謀本部オ十三班長大佐オリ
シエ、アドルである、当時此の班は戦争指導の總括的問題
に従事してゐた。

問：何故宣戦布告無しに米國を攻撃したか。

答：戰畧的成功を確保するためである。

問：滿洲奪取後滿洲國政機關の日本化が行はれたか。

20
答：然り

2145

問：満洲国政機関日本化の目的は如何

答：日本が己が欲する儘に満洲国を統治し得るためである

問：国政機関の日本化は軍事的豫定として満洲を整備する手段の一つではなかったか

答：さうであつた

問：日本から満洲へ日本農民の移住が行はれたが

答：然り、一九四四年末満洲には百三万の日本人がゐる

日本は移住に関する自己の計画遂行に成功しなかつた

計画に依れば十年或は二十年（明確には記憶せず）の間に

三百万の日本人が移住しなければならぬ筈であつた

問：日本人の満洲移住の目的は何が

答：オ一に日本国内に於ける人口過剰に伴ふ困難な状態

を軽減する事、オ二に満洲の日本化、オ三に戦時に於ける

関東軍人員補充の確保である

問：それは此の移住は政治的のみならず軍事的意義

をも有してゐたのか

21

答：然り

2145

問：貴方が参謀本部第二部第五課長であつた当時

「ソビエト」聯邦に関する情報入手のため貴方は如何

なる手筋を利用してゐたか。

答：関東軍、北海道本島の北部軍、内蒙軍の各諜報

部資料、「モスクワ」、「アムステルダム」、「ベルリン」、其他「ソ」聯と境

接する諸国駐在の武官及び大使館の報告、露露西亞の

刊行物とラジオ、傍受に依る資料である。

問：直屬の諜報機関があつたか。

答：否。

問：誰の諜報機関が利用せられたか。

答：諜報機関は哈爾濱の関東軍司令部情報局内に

のみあつた。

問：貴方は「オサノ」部隊に就いて何を知つてゐるか。

答：哈爾濱特務機関指導の下に白系露人より成る新

から部隊があつた。此の部隊も指揮してゐたのは大尉「オサノ」

である。此等部隊はヤニ松花江附近に展開されてゐた。

22

問：白系露人部隊編成の目的は何であつたか。

答：此等部隊の使命は戦時に於ける牽制行動である。

調書は私がこれを通讀した。私の陳述に依る証言は正確に記
載され之が証として署名する

証人 陸軍少将 松村知勝 署名

通訳 陸軍少佐 バシコフスキイ 署名

訊問者 東京国際軍事裁判所「ソウイェト」聯邦側

参與檢察官 ローゼンブリット 署名

秘書兼速記者 クルジエフスカヤ 署名

訊問開始 十時四十分

訊問中断 十二時三十分

訊問再開 十四時十五分

訊問終了 十六時

本調書にはインクを以て次の訂正が為された。

即ち

四頁「13」を抹消

五頁「課」に訂正

九頁より十一頁迄の間「グリチメル」といふ姓を

七個所に於て「グシチメル」に訂正

十四頁「リガ、タリン、フルソー」を抹消

十五頁「私に依つて」を訂正

「個々の困難なる表現の日本語訳を

附して」を抹消

松村知勝 署名

大佐 ローゼンブリット 署名

25

2145

書類才二四五号

證

余中山 登ハ余ガ日本語及ビ露西語ニ精通
セル者ナルコト並ニ露西語原文及ビ日本語原文ヲ
対照ノ上右ハ本書類ヲ眞実ニ且正確ニ翻訳セルモノ
ナルヲ確證セルコトヲ茲ニ證ス

署名

中山 登 (印)

昭和三十一年八月十五日